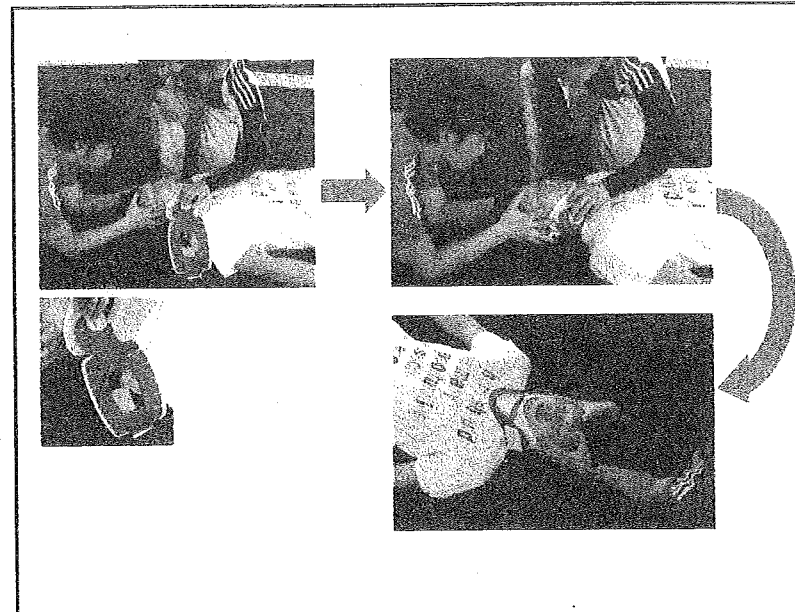
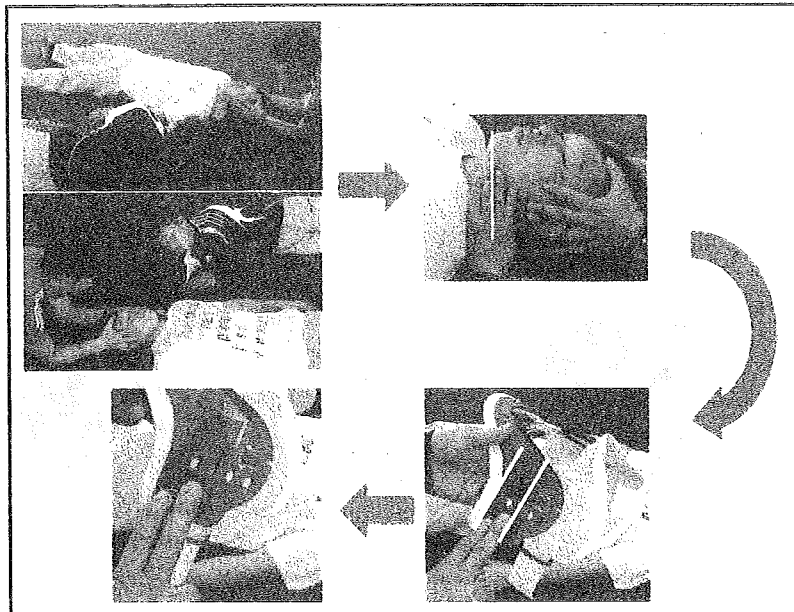
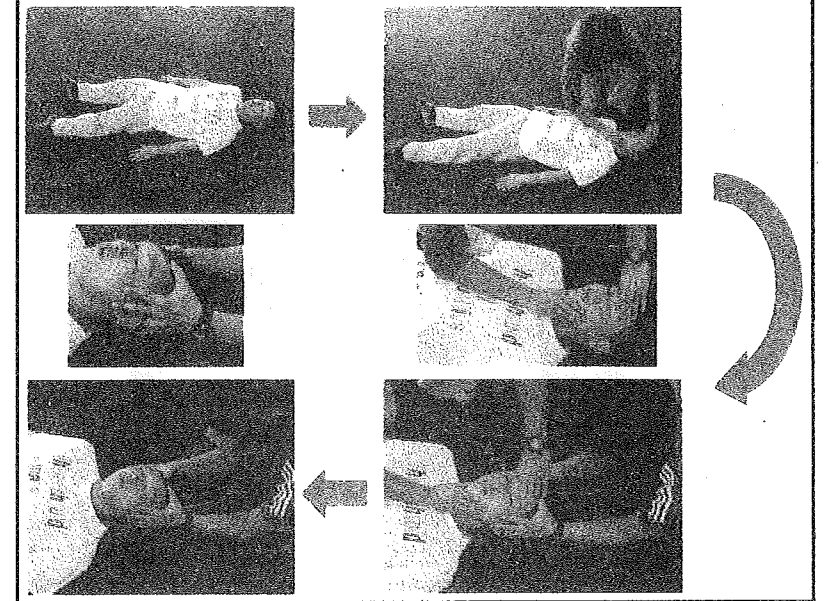


意識消失を伴う頭部外傷または頸髄損傷が
疑われる選手の搬送について
(IRB Immediate care in Pitch Side Courseより)

IRB Medical Course Educator
山田陸雄

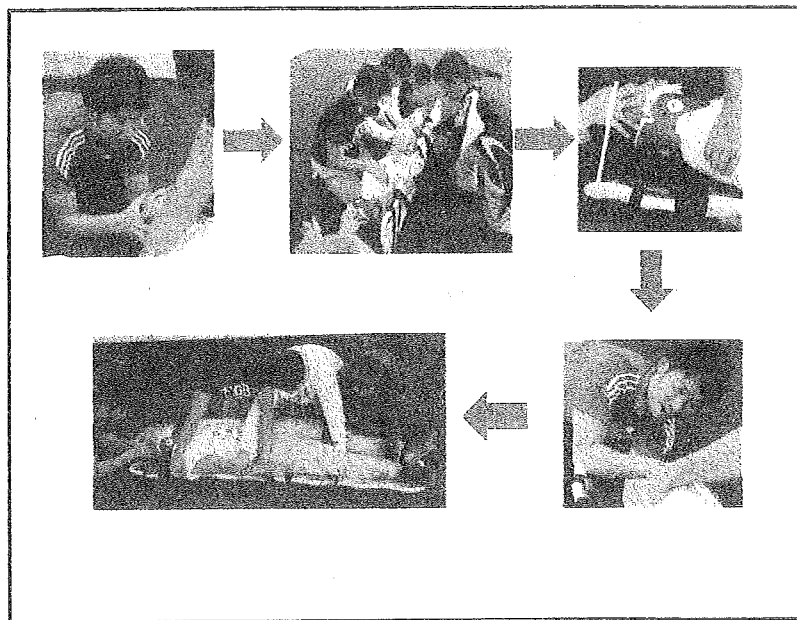
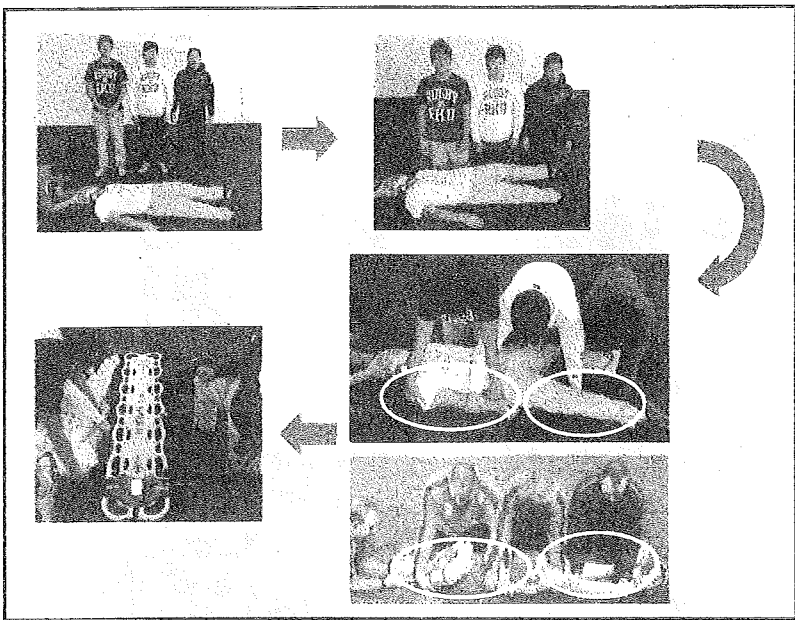
Semi-rigid collars

- Manual in-line stabilization (MILS)で固定
- カラーの高さを計測
- カラーの高さを調整
- ベルトを巻き込まないようにしてカラーをあてる
- カラーを装着する



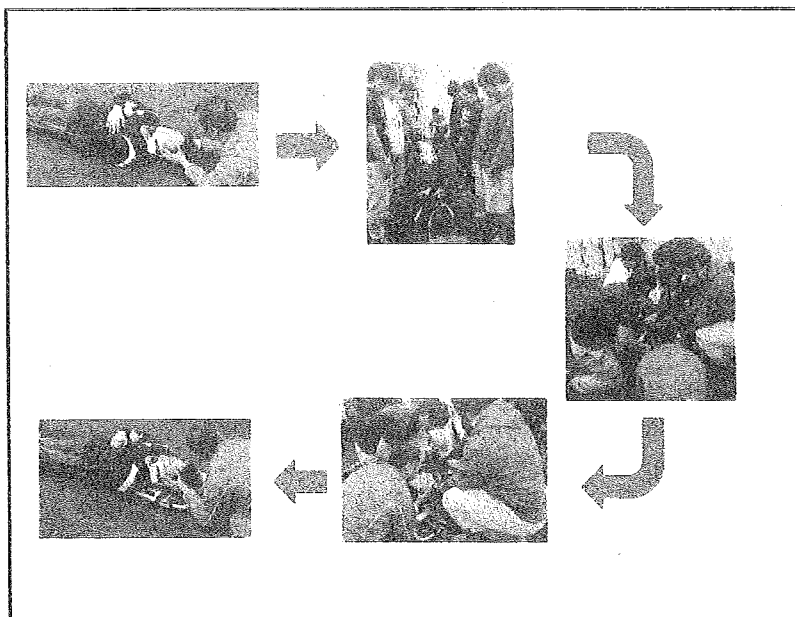
Log Roll

- 最低限5人が必要である(MILS 1名、Roll 3名、ボード1名)
- 負傷した選手の頸部を固定後、両上肢は体側におくか、または体幹前面で組んだ状態にする
- 頭頸部を固定している人がリーダーとして仕切る
- 一番背が高い人が肩から肘にかけて外側をもつ
- 次に背が高い人が片方の上肢で骨盤をもち、もう一方の上肢で外側の大腿部を救い上げる
- 一番小さい人は膝と下腿を救い上げる
- リーダーの掛け声で手前方向へ転がすように引き上げる
- 背中にボードを挿入し、頭の高さを合わせる
- リーダーの掛け声でボードと身体を地面に戻す



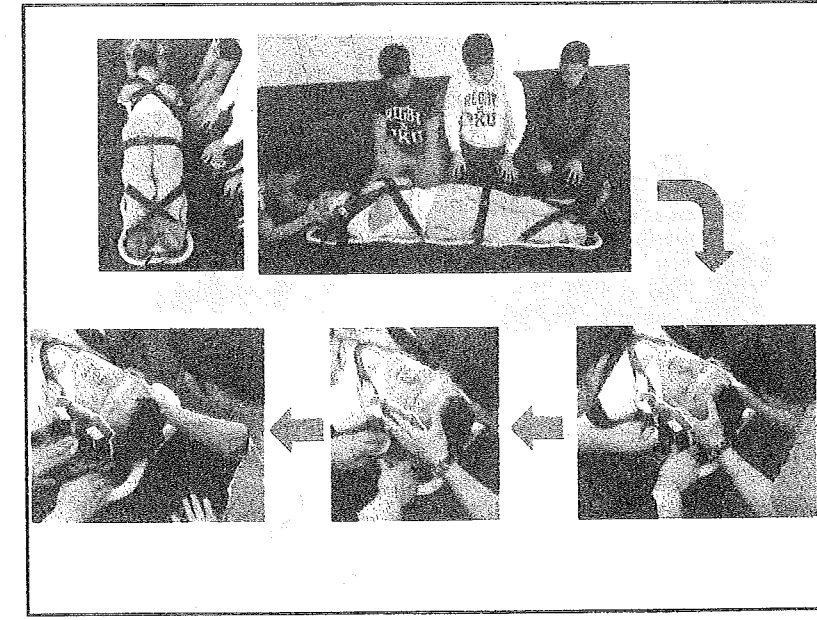
Lift and Slide 法

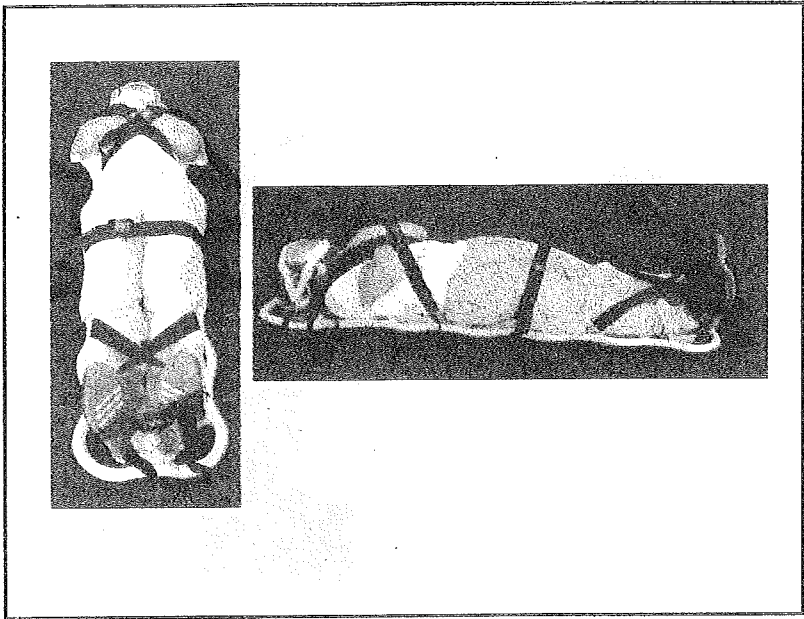
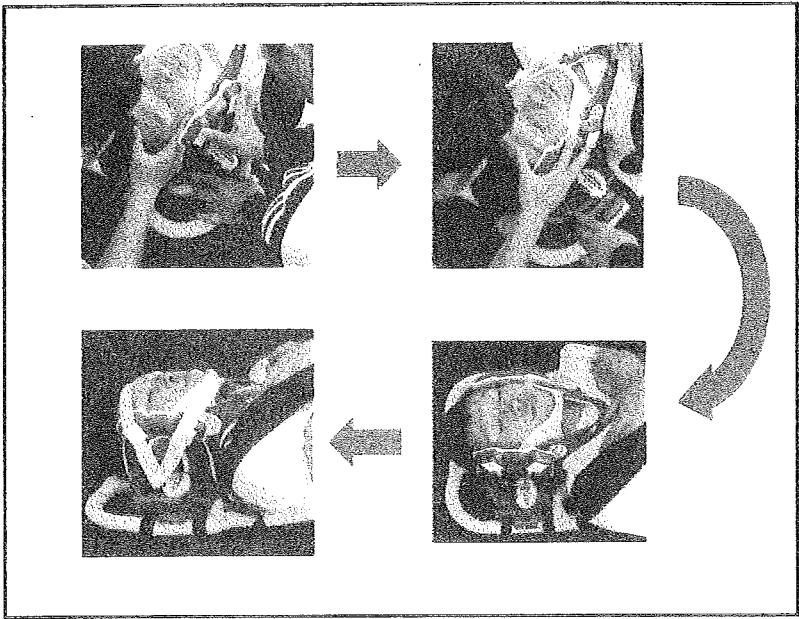
- 8名が必要。
- 頸部を固定するまではLog Rollと同じ手順。
- 患者の左右に3名ずつ立ち(立ち方はLog Rollと同じ)
- 頭部を固定している者の合図で患者を少しだけ持ち上げる。
- その際に足部から頭部へ方向へLong (Spinal) Boardを入れる。



Long (Spinal) Board

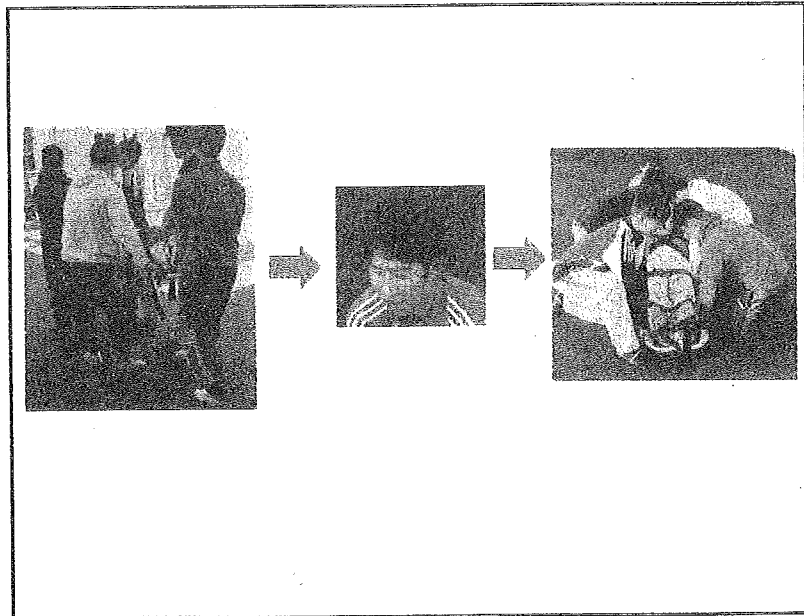
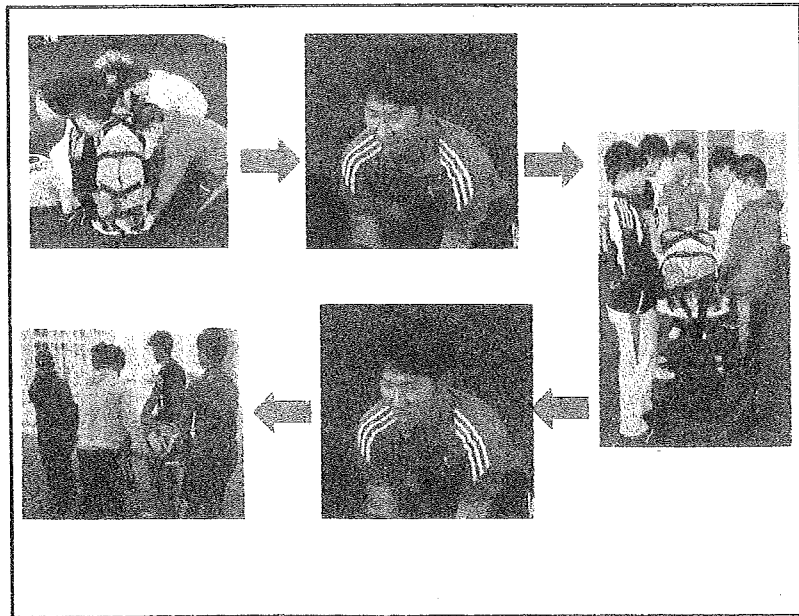
- Log Roll後にボードに乗せた後、ボードの中心に乗るように微調整
- ストラップにて身体を固定
- ヘッドブロックとヘッドテープにて頭頸部を固定
- このボードは長時間の搬送には向かない





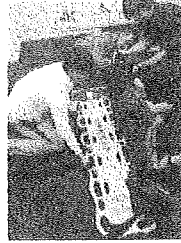
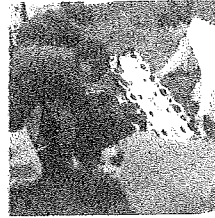
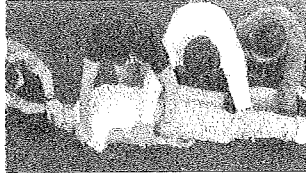
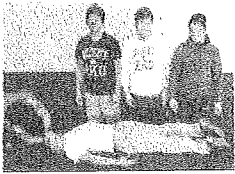
Transport

- リーダーの掛け声でボードを決して傾けないように慎重に持ち上げる
- リーダーの掛け声で足部方向に移動
- リーダーの掛け声でボードを決して傾けないように慎重に置く



うつぶせになっている場合

- 頸部を固定する
- Log Rollと同様に3名を体側に並ばせる
- 頸部と体幹のなす角度を変化させないようにLog Roll
- 頸部が回旋したまま仰向けにする
- MILSからのLog Rollを行う
- この時にLong (Spinal) Boardに乗せても良い (Pushing Log Rollが良い)。



夏季の練習についての注意ならびに夏合宿に向けて

夏季練習・夏合宿を迎えるに当たって、指導者や選手は以下のことを十分に配慮して臨むようにしましょう。特に指導者は、選手の安全確保を最優先しチーム・指導者の責任のもと、夏季練習・夏合宿を実施するようにしてください。

1. 気温の高くなる時間帯での練習や試合を控えると同時に湿度にも十分注意を払う。
2. 試合時間や練習時間および内容に十分配慮する（長時間連続する練習、試合の回避および1日の試合数の制限（1試合以内）、練習内容の変更等）。
3. 疲労度や体調などに十分注意し、常に各自でコンディショニングチェックを行うよう心掛ける（心拍数、体温、体重、汗の出方等）。
4. 暑さに十分馴れておく。
5. 水分の補給を十分にし、適宜休息をとる。
6. 直射日光に対する対策をとる（裸体の禁止、風通し、吸汗のよい服装、帽子の着用、日焼け止めクリームの使用等）。
7. 合宿地での医療機関を確認する。
8. 雷には細心の注意を払い、付近で落雷のあった場合はすぐに練習、試合を中止する。
9. グラウンド近くに日影があるかを確認し、なければ確保するよう努める。
10. 人工芝では天然芝よりも表面温度が10度以上高くなるという報告や年齢による温度の感じ方に関する相違の報告もあるので十分注意を払う。
11. 近年、スクールや中学生等の若年層、およびクラブでの重傷事故の増加が報告されているので当該関係者は十分注意を払う。

熱中症を予防するために

各地で梅雨に関するニュースが盛んに流されております。熱中症はご存じのように、梅雨の晴れ間の急に暑くなったときによく起っています。次の「熱中症予防について」をしっかり熟読し夏合宿前の練習や夏合宿に備えてください。

また夏合宿中の練習試合については、まだまだ試合数の多いチームが散見されます。疲労した体でなおかつレベルの違う相手では、弱い者に大きなダメージがくるのは戦いの常識であります。強い相手にどれだけ現在のチーム力が通じるのか試したい気持ちは十分理解できますが、ダメージを受けるのは体力的に弱いプレーヤーです。

昨年日本協会からの呼びかけに、夏合宿中の練習試合は1日1試合ということが守られ始めてきたようです。引き続き今年も練習内容を工夫されて1人のプレーヤーが出場する試合は1日に1試合以内を守るよう注意しましょう。

「熱中症予防について」

《原因》

暑い環境のもとで激しい運動により、からだが生み出す熱に対して、周囲は高温多湿のため熱の放散が妨げられ、体温が上昇することにより起きる。重要な臓器（特に脳）が障害を受けることもあり、死亡することがある。

《症状》

頭痛、吐き気、めまい、脱力感、けいれん、意識障害、高体温等などが認められ、意識障害がある場合は重症である。

《処置》

＜意識がはっきりしている場合＞

涼しいところへ運び、衣服をゆるめ、寝かせる。

吐き気やけいれんがなければ、水分補給。水分摂取ができない場合は救急車を要請する。体温が高ければ、水を全身にかけて風を送る、または氷で首の横、脇の下、足のつけね前面を冷やす。様子がおかしければ直ちに救急車を要請する。

＜意識がないあるいは意識がぼんやりしている場合＞

応答が鈍い、言動がおかしい、あるいは意識がない場合は、迷わず救急車を要請する。涼しいところへ運び、衣服をゆるめ寝かせる。体温が高ければ、水を全身にかけて風を送る、または氷で首の横、脇の下、足のつけね前面を冷やす。経過を注意深く見守ること。

《熱中症要因》

外的要因

周辺温度 直射日光 湿度 風

衣類（黒い衣類、ヘッドギア、ショルダーパッド）

薬物 風邪薬、カフェイン

内的要因

熱中症の既往のある選手

体格（肥満）、有酸素性体力、気候順応

水分補給状態

病気（かぜ、下痢、など）

《予防》

暑熱環境の把握

暑熱馴化

暑熱環境を把握することは熱中症予防のうえで非常に重要です。

環境省熱中症予防情報サイトで、日本全国 840 地点の暑さ指数（WBGT）の 3 日後までの予測値が公開されています。

安価な携帯型熱中症計が市販されています。

雷に関する注意

1. 頭上に厚い黒雲、突風、急激な気温低下、激しい雨、雷鳴、雷光、等の予兆現象があった場合は状況を判断し早急に試合や練習を中止して、近くの建物、自動車、バスの中などの安全な場所に避難する。
2. 雷注意報、警報の発令があり落雷の危険性が高いと判断した場合は直ちに練習、試合を中止する。
3. 高い物体からは 4m 以上離れ、とくに樹木からはできるだけ離れて、安全な場所に避難する。林や森は危険です。
4. 避難する安全な場所は、自動車の中、バスの中、列車の中、鉄筋コンクリート建物の内部である。木造建物の内部も多くは安全であるが、仮小屋やテント内は危険です。
5. 避難するときに、コンクリートの電柱や鉄塔から 2m 離れた場所や電線の下は比較的安全とされている。ただし、木製の電柱には近づかないこと。
6. 雷活動が止んで 20 分以上経過してから、屋外にでる。 7. 安全な場所に避難できなかった場合は、高い物体から 4m 以上離れて、窪地があればそこで姿勢を低くして雷活動をやむのを待つ。 8. あらかじめ気象情報に注意して、雷の危険性があると判断した場合は、練習や試合の予定の変更を検討すること。
7. 安全な場所に避難できなかった場合は、高い物体から 4m 以上離れて、窪地があればそこで姿勢を低くして雷活動をやむのを待つ。
8. あらかじめ気象情報に注意して、雷の危険性があると判断した場合は、練習や試合の予定の変更を検討すること。

2014 年 6 月

(公財)日本ラグビーフットボール協会
安全対策委員会

水分補給（体重減少 2%以内、喉の渇きにもとづく自由飲水、0.1-0.2%の食塩水）

吸湿性・通気性の良い衣服

直射日光の下では帽子やタオル

《熱中症対策：熱ストレス減少のための戦略》

(IRB ガイドライン)

教育

トレーニングとプレーにおける適切なスケジューリング

暑熱馴化

コンディションの評価

現場での対策

危機管理

(選手への教育)

過去の熱中症の既往の有無を報告する

発熱を伴う感染症の罹患の有無を報告する

薬物 風邪薬、カフェインを使用した場合は申告する

水分補給の重要性を理解(練習および試合前、中、後)

熱ストレスの徴候の早期報告

痙攣、頭痛、嘔気、嘔吐

通気性の良い、軽い、締め付けの少ないウェアを着る

(現場指導者の注意点)

暑熱環境の把握 (WBGT が望ましい)

選手の熱ストレス徴候を早期発見

発熱を伴う感染症にかかっているかどうかを報告させるよう指導

水分補給を意識した練習計画 (自由飲水の可能な練習環境)

運動前後の体重測定 (体重減少 2%以内となるように水分補給)

熱射病の危険性の理解

暑熱馴化には 7-10 日かかる

選手の特長 (熱中症のなりやすさ) の確認 (経験年数が少ない、過去に熱中症の経験あり、

肥満気味、体力が低い)

(試合での対策)

ロッカールームでのエアコンまたは扇風機の使用 (または団扇)

ロッカールームが無い場合はグラウンドサイドにテントなどの日陰を確保する

氷水につけたタオルの準備

ウォーターブレイクを入れる

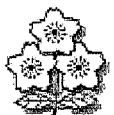
ウォーターブレイク時に熱ストレスのチェック、身体を冷やす、水分補給を行う

参考:



2014年 レフリングの指針

平成26年6月
JRFU 審判委員会



レフリング指針

1. 安全を優先するレフリングの実践
2. フェアーなコンテストの遂行
3. 継続性のあるプレーの推進



レフリング目標

1. 安全性を最優先したレフリング
2. 危険なプレーに対する厳格な判定
3. 安全かつコンテストを考慮したスクラムコントロール
4. フェアーなコンテストを伴ったラインアウトプレーのコントロール
5. フェアーなコンテストを考慮したブレイクダウンの判定およびプレーの継続の判断
6. フェアーなコンテストにつながる攻撃及び防御スペースの確保
7. プレーの継続性につながる効果的なアドバンテージの適用と明確な解消
8. マッチオフィシャル間の連携機能の強化



重点項目

1. 危険なプレーに対する厳格な基準の適用
2. 安定したスクラム形成の維持
3. ラインアウトのフェアーなコンテスト及び離脱の確認
4. タックルシチュエーションの優先順位に基づく判定
5. ラック&モールのオフサイドの正確な判定
6. オープンプレーにおけるキックオフサイドの正確な判定
7. カテゴリーを考えたアドバンテージの適用と明確な解消
8. マッチオフィシャルの協力によるゲーム運営の強化



タックルの判定

1. タックルの判定の優先順位は、
 - ①タックラーとアシストタックラー
 - ②タックルされたプレーヤー
 - ③アライビングプレーヤー

でありタックルの成立とそれぞれの義務行為をレフリーは段階的に確認する。



タックラー

1. タックラーは、
 - ①タックルされたプレーヤーとボールを直ちに離す。
 - ②立ち上るか、タックルされたプレーヤーとボールから直ちに離れる。
 - ③立ち上がった後は、ラック形成前であれば、どの方向からボールをプレーしてもよい。
2. アシストタックラーは、
 - ①タックルされたプレーヤーとボールを放す。
 - ②その後、ボールの後方、かつ、自陣ゴールライン側に近い側のタックルされたプレーヤーまたはタックラーのいずれかの真後ろからプレーする。

レフリーは、タックラーの義務行為を確認する。



タックルされたプレーヤー

1. タックルされたプレーヤーは、
 - ①直ちにボールをプレーできるようにする。
ボールをリリース(パス 放す 置く など)する。
 - ②相手側がボールを獲得するのを妨げてはならない。
ex.ボールのリリースを遅らせるためのボディーポジションでボールを覆う。(スクイズボール)

レフリーは、タックルされたプレーヤーの義務行為を確認する。



アライビングプレーヤー

1. アライビングプレーヤーは、
 - ①ボールの後方、かつ、タックルされたプレーヤーまたは、タックラーのどちらかで、自陣ゴールラインに近い方のプレーヤーの真後ろからプレーする。
 - ②立って(足以外の体の部位が地面または地上に横たわっているプレーヤーにもたれかかっている状態)プレーする。

レフリーは、アライビングプレーヤーの義務行為を確認する。



タックルのマネージメント

1. レフリーは、

- ①フェアなコンテストを妨げるプレーの的確な判定を行う。
ボールの継続可能な状態を判断しプレーを継続させる。
- ②質の高い判定のために、タックルとボールの状況を確認できるポジショニングをする。
- ③わかりやすいシグナルやプリベントコールにより、プレーヤーと良好なコミュニケーションを行う。

9



ELVスクラムエンゲージメントプロセス

- 1. ELVスクラムエンゲージメントプロセスを適用する。
- 2. ELVスクラムエンゲージメントプロセス導入の理由を考慮し、プレーヤーの安全を最優先してスクラムのエンゲージを行う。

レフリーは、
安全を損なうスクラムエンゲージについては厳格に判定する。
- 3. スクラムのコールは、「クラウチ」「バインド」「セット」である。
3段階のコールはそれぞれのコール前の準備状態を確認した後にコールする。

10



クラウチ

1. レフリーは、

- ①マークを示す。
- ②それぞれのチーム同士のプレーヤーのバインドを確認する。
- ③「クラウチ」をコールする。
- ④その後、両フロントローの姿勢と「ear to ear」の間隔を確認する。

11



バインド

1. レフリーは、

- ①クラウチの状態を確認する。
- ②「バインド」をコールする。
- ③コール後は、バインドの位置を確認する。
(1) LHプロップは、肩や腕ではなくボディーにロングバインドをする。
(2) THプロップは、背中や脇にバインドするかそれ以上のボディーへのロングバインドをする。
- ④「セット」コールの前にプロップは相手にもたれかからない。

12



セット

1. レフリーは、

- ①バインドの状態を確認する。
- ②「セット」をコールする。
- ③セット後は、両フロントローの自立と安定、ステップを確認する。

13



ボールの投入

1. レフリーは、

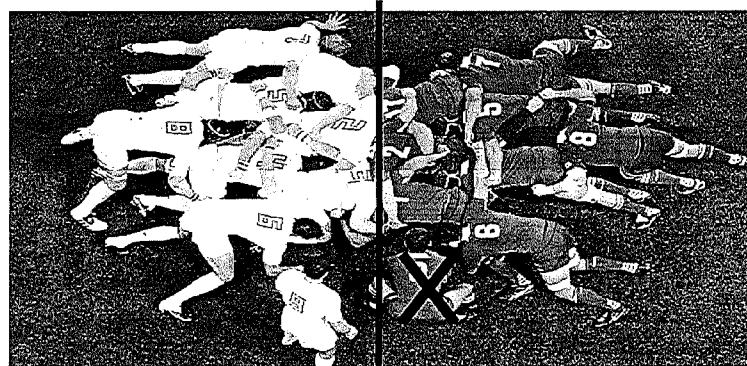
- ①「セット」後のスクラムの安定状態を確認する。
- ②スクラムハーフの位置を確認する。
- ③ボール投入の合図をSHにする。
- ④合図の後、ボールの投入を確認する。

14

Scrum



Scrum Half Position



15



スクラムのコンテスト

1. レフリーは、

- ①ボール投入前のコンテストを確認する。
- ②ボール投入後に、フェアなコンテストが行われているかを確認する。
- ③スクラムに参加しているプレーヤーのスクラム終了までのバインドを確認する。

16



ラインアウトの形成

1. レフリーは、ラインアウト開始前に、

- ①ラインアウトに参加するプレーヤーの人数を確認する。
- ②ラインアウトに参加するプレーヤーの位置を確認する。
* 特に、レシーバーとボールを投入する相手側のプレーヤー

77



ラインアウトのコンテスト

1. レフリーは、ラインアウト開始後に、

- ①フェアなコンテストが行われているかを確認する。
特に、ジャンパー及びサポートプレーヤーへのチャージなど危険なプレーを確認する。
- ②モール形成時のコンテストについて、オブストラクションプレーを確認する。
- ③ラインアウトでのモール成立・不成立を判断する。モール形成後のコラプシングを確認する。

78

ラインアウトの15mを超えるオフサイド ラインアウトからの離脱

1. レフリーは、ラインアウト開始後に、

- ①ピールオフプレーを確認する。
- ②15mラインを超えるオフサイドの位置へのプレーヤーの移動を確認する。
- ③自陣ゴールライン方向への離脱を確認する。
Law19.14(e) PK

79



ラックの形成時

1. レフリーは、

- ①ラック形成とタックルオンリーの状態を確認する。
- ②ラック形成時のフェアなコンテストを確認する。
特に、危険なプレー、プレーの継続を妨げるプレーに対しては厳格に判定する。

80



ラック形成後

1. レフリーは、

- ①ラック形成後は、プレーヤーの参加を確認する。
特に、危険なプレー、プレーの継続を妨げるプレーに対しては厳格に判定する。
- ②ラック形成後、攻撃と防御のスペースを確認する。
オフサイドプレーヤー、ラックへ参加しているまたは参加するプレーヤーのプレー、離れたプレーヤーの行為を確認する。

81



ラックからのボールアウト

1. レフリーは、

- ①ラックの終了とその後のプレーを確認する。
- ②ラックの中のボールをスクラムハーフまたは他のプレーヤーが持ち出した時ラックは終了する。

82



モール

1. レフリーは、

- ①モール形成の状態を確認する。
- ②モール形成後は、コラプシングなどの危険なプレー、プレーの継続を妨げるプレーに対しては厳格に判定する。
- ③モール形成後、正しくコンテストが行われるか判断するために、オフサイドプレーヤー、モールへ参加している、または、参加するプレーヤーのプレー、離れたプレーヤーの行為の確認を行う。

83



キック

1. レフリーは、

- ①キッカーの前方にいるプレーヤーを確認しコントロールする。
- ②キック時にボールを追いかけるプレーヤーへのオブストラクション、ボールをキャッチしようとするプレーヤーをプロテクトする行為を確認する。

84



オブストラクション

1. レフリーは

- ①オープンプレー時のオブストラクション行為を確認する。

特に、ボールキャリアーの前方にいるプレーヤーの行為を確認する。



ゲームマネージメント

- 1. クリアーなシグナルを用いる。

- 2. 簡潔でわかりやすい説明(Law bookの用語を用いた)をする。

- 3. 明確なアドバンテージコールとシグナルを適用する。

- 4. マッチオフィシャルの協力によるスピーディーなゲーム運営をする。



ハンドリングエラー

1. レフリーは、

- ①ノックオンの正確な判定のできるポジションニングをする。

- ②スローフォワードの正確な判定のできるポジションニングをする。



最後に

安全性を最優先し、よりスピーディーかつ質の高い継続性のあるゲームを創り出すために、マッチオフィシャル、プレーヤー、コーチが協力してゲームを運営していかなければならない。

ゲームに参加するすべての人々が、ラグビーのゲームの原則を考慮し、レフリングの指針を適用し、協調性を持ってゲーム運営を行うことによって、我が国のラグビーは発展する。



危険なプレー

1. レフリーは、

- ①安全性を最優先したゲームコントロールを行う。

- ②危険なプレーに対しては一貫性を持って厳格に対処する。

特に、リフトタックルは厳格な基準で判定する。

空中にいるプレーヤーへのタックルに対しても厳格に判定する。



マッチオフィシャルの連携機能の強化

1. レフリーとARは、

- ①試合前に、レフリーとARのミーティングを実施する。

- (1)レフリーは、ARにポジションや具体的なサポート項目を指示する。

- (2)ARレポートの手順を確認する。

- (3)不正なプレー・不当なプレーに関して、レフリーとARがお互いの基準を事前に確認する。

- ②試合後に、レフリーとARのミーティングを実施する。

2. ARは、果たすべき役割とレフリーサポートの優先順位を明確にして任務する。

*TJも職務の範囲内で連携機能を強化する。

公認レフリー制度について 2014.7.6

① 埼玉県協会公認(C級)

県協会主催講習会(5月実施)・筆記試験(7月13日予定)・実技試験

県内各カテゴリーの試合を担当

② 関東協会公認(B級)

県協会推薦・認定講習会(8月初旬・菅平高原)

関東協会主催試合を担当

③ 関東協会公認(A2及びBトップ)

関東協会推薦・ゲームのパフォーマンス・研修会参加(8月中旬以降・菅平高原)

関東協会主催試合・日本協会主催試合(A.R)を担当

埼玉県: (A2)5名 新井 卓也・久米村 貴三・塩原 克幸・田崎 富・平賀 誠司

(Bトップ) 清水 祐哉

④ 日本協会公認(A・A1)

ゲームのパフォーマンス

日本協会主催試合(A.R)を担当

*** 埼玉県協会レフリー委員会管理で現段階での資格及び今後の希望確認をしたいと**

考えております。下記アドレスにメールをお願いします。フォーマットを返信します。

埼玉県教会レフリー委員会(埼玉県立伊奈学園総合高校) 中西 喜幸

nakanishi.yoshiyuki.51@spec.ed.jp

個人情報 は 厳重 に 管理 します。

埼玉新聞購読申込書（埼玉県ラグビー協会）

チーム名

記入者

電話

※購読中の方も必ずご記入のうえ、下記FAXまでご返信ください。

（販売店に直接申し込まないようご注意願います）

※新規購読の方は3カ月以上からお願いいたします。

※配達する販売店への手配の関係上、現在購読している新聞名に○をつけてください。「○」印のない場合は当方で販売店を選定させていただきます。

契約期間中の販売店の変更はできません。

※現在ご購読中の方もご記入し、「購読中」に○印をつけていただきご提出願います。

※現在ご購読されている新聞の契約期間は履行願います。

購読申込者	住所・電話	購読期間
	電話番号 () -	月から カ月 (新規 ・ 購読中)
現在購読中の新聞(併読の場合は○ 中止の場合は×)⇒朝日・毎日・読売・産経・日経・東京・なし		
	電話番号 () -	月から カ月 (新規 ・ 購読中)
現在購読中の新聞(併読の場合は○ 中止の場合は×)⇒朝日・毎日・読売・産経・日経・東京・なし		
	電話番号 () -	月から カ月 (新規 ・ 購読中)
現在購読中の新聞(併読の場合は○ 中止の場合は×)⇒朝日・毎日・読売・産経・日経・東京・なし		
	電話番号 () -	月から カ月 (新規 ・ 購読中)
現在購読中の新聞(併読の場合は○ 中止の場合は×)⇒朝日・毎日・読売・産経・日経・東京・なし		
	電話番号 () -	月から カ月 (新規 ・ 購読中)
現在購読中の新聞(併読の場合は○ 中止の場合は×)⇒朝日・毎日・読売・産経・日経・東京・なし		

※購読料は1カ月 2,762 円＋税(朝刊のみ)でお近くの取扱販売店から配達・集金いたします。

※新規の方は購読期間を明記してください。記入がない場合6カ月以上の契約とさせていただきます。

※各種サービスのお知らせ、新聞ご延長のお願いなどでご連絡する場合があります。

お申し込み・お問い合わせは

埼玉新聞社 運動部 勝俣直 FAX 048-653-9026 TEL048-662-6672

平成 26 年 6 月 14 日

関係者各位

第 94 回全国高等学校ラグビーフットボール埼玉大会実行委員会
(財)埼玉県ラグビーフットボール協会 会長 富岡 清(印略)

第 94 回全国高等学校ラグビーフットボール埼玉大会の協賛について

初夏の候 関係各位の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
皆様には平素よりラグビー競技に格別のご配慮をいただき深く御礼申し上げます。

さて、第 94 回全国高等学校ラグビーフットボール埼玉大会を 9 月 6 日より 11 月 15 日までの期間、県営熊谷ラグビー場(熊谷スポーツ文化公園)を主会場として開催する事になりました。実行委員会を組織し、名実ともに若人の祭典として意義ある大会にすべく、準備を進めて参りましたが、大会運営に必要な経費の確保については厳しい状況にあります。つきましてはプログラムへの協賛広告掲載に格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 事業名 第 94 回全国高等学校ラグビーフットボール埼玉県大会プログラム協賛
- 2 体裁 A4判 60ページ
- 3 予定部数 2200部
- 4 協賛費

形式	掲載面積	協賛広告費
A	1 頁	30,000円
B	1/2頁	15,000円
C	1/4頁	10,000円

- 5 事務局 埼玉県立浦和工業高等学校 大会事務局代表 宮本和則
〒338-0832 埼玉県さいたま市桜区西堀 5-1-1 TEL048-862-5634
- 6 申込先 埼玉県立大宮高等学校 ラグビー部顧問 増田大作
〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 2-323
TEL048-641-0931/090-2431-3113

※広告協賛申込書は、E-mail・Fax・郵送の方法で増田にお送りください。
※原稿(版下)は、E-mail・郵送・手渡しの方法で増田にお送りください。

●データ形式はワード・エクセル・一太郎・PDF・JPEGなど

①E-mail masuda.daisaku.46@spec.ed.jp

②FAX 048-640-1965

③郵送 上記住所 増田大作 宛

- 6 申込締切 平成26年8月22日(金)
- 7 口座振込 埼玉りそな銀行 東浦和支店 普通預金 口座番号0607189
ラグビー南部高体連(らぐびーなんぶこうたいれん)
- 8 納入期限 平成26年8月25日(月)
- 9 その他 (1)掲載場所は事務局に一任させていただきます。
(2)プログラムは、完成次第、送付させていただきます。

広告協賛申込書

第 94 回全国高等学校ラグビーフットボール埼玉県大会プログラム広告について、
下記のとおり協賛いたします。

社名 (団体名)	
代表者名	
所在地	
電話番号	
協賛費	A・B・C (いずれかに○印)
担当者名 連絡先	TEL(- -)内線()
原稿入稿	①E-mail ②郵送 ③前年度と同じ
備考	

E-mail(masuda.daisaku.46@spec.ed.jp)

FAX(048-640-1965)